



ヨモが来た

加藤多一

絵・國澤いずみ

①

グループホーム「なごみ園」の玄関ホールに、いきなり老人の泣き声がひびいた。

「ヨモ——ヨ・モ・オーゆるしてくれえ」

男子棟の入居者・国さんだ。

介護の男と女子棟の二人が、とんで来た。

国さんは玄関に近いところにおかれたペットのケージに取りすがって泣きさげぶ。

中におびえているのは、ネコだ。

男が国さんをうしろから抱きとめた。

「やめなさい。ネコがおびえている」

体が大きく力持ちの国さんが腰で男をふりとばす。

車イスの幸子さんがやってきた。

いつも国さんに車イスをおしてもらっているなかよしだ。自分も左足が遅れて体についてくる国さんなのに、幸子さんの車イスをおしたがる。

「ちよいと国さん、そんなとこで何やってるのさ。ネコがきらいなのかい。ちよいと、国さんよ。国さん。泣くかしやべるか、どちらかにしなさい」

幸子さんの手を、国さんがふりはらった。その手が施設長代理の由美さんゆみのうでにぶつかかった。

「みなさん、さあ、もう自分の部屋にもどってくださいな。何でもないんですから——」

人数がかえってふえた。

「何でもないってことないでしょ。由美さんだってあわて